

第118回 ナポレオンの没落とウィーン会議

1 ナポレオン帝国の崩壊

- ・ナポレオンに最後まで抵抗していた（ ）に対し、ナポレオンは1806年、ベルリンで（ ）を發した。
→しかし（ ）がこれに違反して貿易を再開した。
→1812年、ロシアに対して大規模な遠征を開始した。



ナポレオン1世
さすがの英雄ナポレオンも、ロシア遠征以降は運が尽きた感じがする…。

- ・ロシア軍は国土を焼き払いながら、戦いを避けて後退していった。
→ナポレオンはロシア軍を追って進撃し、モスクワを占領した。
→しかし冬將軍の到来によって撤退を余儀なくされ、壊滅状態となった。
- ・遠征の失敗をうけて、ヨーロッパ諸国は（ ）を結成した。
※ナポレオン打倒を目指して行われた一連の戦いを解放戦争と呼ぶ。
→1813年、同盟軍は（ ）でナポレオン軍を破った。
→1814年、同盟軍はパリに進撃し、ナポレオンは退位してルイ18世が即位した。
→ナポレオンは、地中海の小島である（ ）へ流された。



撤退するナポレオン

ロシアの最終兵器、「焦土作戦」が久しぶりに発動した。最強を誇ったナポレオン軍は、なすすべもなく壊滅状態となった。



ライプツィヒの戦い

諸国民戦争と呼ばれる。急きょ徴兵されたフランス兵19万は、士気が低く訓練も不十分だった。一方、対仏大同盟軍は、36万の兵力があった。



映画『戦争と平和』

トルストイ原作の『戦争と平和』は、ナポレオン時代のロシアが舞台。オードリー・ヘプバーン主演で映画化もされた。

2 ナポレオンの百日天下

- ・1814年、ナポレオン戦争の戦後処理のため（ ）が開かれた。
→諸国の利害が対立し、会議はまったくまとまらなかった。
※「 」と風刺された。

- ・1815年、混乱した状況のなかで、ナポレオンはエルバ島を脱出した。
→諸国は会議を一時中断して、再び同盟軍を結成した。
→イギリス人の（ ）率いる同盟軍は、（ ）でナポレオンを決定的に破った（ナポレオンの百日天下）。
→ナポレオンは、大西洋の孤島である（ ）に流された。



ウェリントン公

「鉄の公爵」と呼ばれた名将である。若い頃はインドの植民地化で活躍し、後にイギリス首相も務めた。本名はアーサー=ウェルズリーであり、ウェリントンとは公爵の位である。

3 ウィーン会議

・足並みがそろわない各国だったが、ナポレオン復帰に驚いて、ようやく妥協する方向にかたむき、1815年、ウィーン議定書を締結した。

・ウィーン会議では、フランス代表の()が主張した()に基づいて話し合いが進められた。

※正統主義とは「フランス革命前の状態を正統とし各国の領土や体制を革命前の状態に戻す考え」であり、それを維持するため大国間の勢力均衡と協調が図られた。

・このウィーン議定書に基づく国際体制を、()と呼んでいる。
→ウィーン会議で議長を務めたオーストリア外相()が、ウィーン体制の中心人物となった。



ウィーン会議

ウィーン体制では、基本的に大国間の勢力均衡がはかられた。それによって、戦争を回避しようとしたわけである。



フランス外相タレーラン

天才外交家として名高い人物。敗戦国であるフランスの責任を、巧みに回避した。なお画家ドラクロワの実の父親とされる。



オーストリア外相メッテルニヒ

Mr.ウィーン体制。オーストリア外相として、ウィーン会議の議長を務めた。1821年からは首相も兼任した。プレイボーイとしても有名で、妻はなんと32歳年下。

<ウィーン議定書の主な内容>

(1) ()、()、両シチリア王国ではブルボン朝が復活した。

(2) イギリスは、()、()、マルタ島を獲得した。

(3) オーストリアは、()と()を獲得した。

(4) 神聖ローマ帝国は復活されず、かわりにオーストリアやプロイセンなどドイツ諸侯35国と4自由市によるゆるやかな国家連合が結成された。

※この国家連合を()といい、オーストリアを盟主とした。

(5) プロイセンは、ライン川流域のラインラントを獲得した。

(6) ロシアは、フィンランドとベッサラビアを獲得した。

(7) ポーランドでは、ナポレオンが作ったワルシャワ大公国が消滅した。

→()皇帝を王とする()ができた。

(8) オランダ王国が成立し、オーストリア領南ネーデルラントを併合した。

(9) ()が永世中立国となった。

4 フランス革命とナポレオンの遺産

・ナポレオンによって、国民意識が高まった各地の人々は、自分たち「国民」が国家を支えていく「 」を建設しようとしていった。

・この「国民」や「民族」を重視する考え方や運動を、()という。